研究余滴

大塚金之助先生とビブリオグラフィー

細谷新治*

昨年5月9日に大塚先生が亡くなられてから1年半が過ぎた。しかし，わたしにはまだ昨日のことのようである。いつも吉祥寺のお宅へうかがうと，わたしにチンザーノをすすめられ，先生は日本酒をちびりちびりやりながら話をされた。東ドイツの大塚文庫へ送る書物の最近の収穫，一橋大学の大塚文庫へ入れる予定のマル・エン全集の飜訳の各国における刊行状況，ときには，一橋大学黄金時代の諸先生（福田徳三，左右田喜一郎，三浦新七）の思い出話など話はつきなかった。そういうときの先生は実に楽しそうであった。

わたしが先生にはじめてお会いしたのは，30年前の1947年3月，先生が東京商科大学経済研究所所長に就任されたときであった。当時，わたしは資料部に勤務していたが，それから先生が研究所の改革の責任を果して辞められるまでの2年間，先生からライブラリアンとしての訓練をうけた。そのときの話は，ナウカKKの『窓』（1977年12月号）に寄せた「大塚先生と書物」に書いたので省略する。要するに，わたしは大塚先生という最高の文献学者から，文献学や書物収集の手ほどきをうけたのであった。それ以来，断続的ではあるが，わたしは30年以上，書物を通して先生とおつきあいさせていただいた。先生はゼミナリステンの指導には，実にきびしかったそうであるが，わたしは先生に一回もしかられたことがなかった。それに甘えてわたしはろくな勉強もせず，亡くなられてからしまったと思っても，もう先生はおられない。いまわたしは先生の著作集刊行準備作業のお手伝いをしているが，この機会におそまきながら先生の書き残された著作によって，改めて文献学を勉強する決心をしたのである。

先生は一般には寡作の学者と思われている。たしかに先生の発表した単行書は，翻訳を含めても10冊にみたない。しかし，先生は決して寡筆の人ではなかった。生涯にわたって書かれた論文，ビブリオグラフィー，エッセイ，短歌，等々の量は相当の数にのぼる。また今度，著作の整理をして分ったことは，尨大な未発表手稿が残されていたことである。そのなかには，1932年前後の経済原論，経済学史の講義

＊ほそや　しんじ　一橋大学社会科学古典資料センター教授

ノート，1945年に先生が大学へ復帰されてから以降の，社会経済思想史の講義ノート，マルクスの『資本』やスミスの『諸国民の富』などの社会科学古典の書き抜き，シェークスピア，ゲーテ，プーシキン，などの文学古典の書き抜き，獄中通信，「三文文庫記録」と題した収書日誌，手紙，等々，先生の生涯や学問や思想を知るための多くの貴重な資料が含まれている。

今回は，それらの資料のなかから，先生のビブリオグラフィーに関する文献のみをリスト・アップして紹介したい。

1　文献目録・文献解題・文献紹介

1)　社会問題文献解題（一)～(十二)；『社会問題講座　第一巻～十二巻　新潮社 1927～28』所収

2)　マルキシズム書目の書目（一九二七年）（文献紹介)；『日本評論社編：社会経済体系　第9巻　日本評論社　1927』所収　p. 421～432

3)　マルクス，エンゲルス著作書目の所在；『商学研究』　7(1)　242～250　(10, 1927)

4)　一九二六年英国炭抗罷業の文献；『商学研究』　7(1)　251～263　(10, 1927)

5)　経済科学；『商学研究』　7(1)　271～274　(10, 1927)

6)　経済科学；『商学研究』　7(2)　266～268　(1, 1928)

7)　経済科学；『商学研究』　8(1)　205～210　(4, 1928)

8)　経済科学；『商学研究』　8(2)　225～243　(7, 1928)

9)　社会科学文献四季報（一九二八年第三季，一九二八年九月一日締切)；『商学研究』　8(3)　220～235　(10, 1928)

10)　支那革命に関するロシア書；『思想』（86）　133～140　(7, 1929)

11)　一九三〇年ロシア書目；『大学と社会』(4)　79～91　(7, 1931)

12)　ソヴエート同盟の社会経済に関する国際的文献，一九三一年 —— 英・米・独・日 ——；『社会学』(1)　159～194　(5, 1932)

13)　世界資本主義発達史文献解題　岩波書店　1932　82p.（日本資本主義発達史講座　第四部　日本資本主義発達史資料解説）

14)　世界恐慌文献（1929—1931）(Bibliographie der Weltkrise, 1929-1931)；『東京商科大学研究年報　経済学研究』(1)　1～33　(5, 1932)

15)　Lecture on the History of Modern Social and Economic Thought, 1961—62. A Book-list for Undergraduate Students, chiefly selected from his private library. Part 1: 14th-17th Century. Part II: 18th Century. Part III: 19th Century. Part IV: Supplement. Privately printed for Kinnosuke Otsuka. 1961～62. 4vols.

2　文献目録・刊行目録の紹介

16)　イギリス経済学は動く――イギリス経済学界雑話，一九三六年――；『日本評論』 11 (11)　51～64　(11, 1936)

17)　経済思想史ビブリオグラフィー――イギリス――；『学鐙』 41 (1)　8～11 (1, 1937)

18)　書物二題；『帝国大学新聞』 (681)　(7, 1937)

19)　フランス大学経済学一覧；『一橋新聞』 (266)　(4, 1938)

3　コレクション・蔵書目録の紹介

20)　一人のアダム・スミス蒐集家；『緑丘新聞』（小樽高商）　(100)　(6,1937)

21)　坂西文庫について　(1940)

22)　メンガー文庫；『Hitotsubashi in Pictures　一橋創立七十五周年記念アルバム委員会　1951』所収　p. 151

23)　カール・メンガー文庫の思い出；『読書春秋』 8 (10)　15～20　(10, 1957)

24)　スミスの蔵書目録（矢内原版）CATALOGUE OF ADAM SMITH'S LIBRARY edited by TADAO YANAIHARA；『日本読書新聞』 (606)　(8, 1951)『アダム・スミスの会編；本邦アダム・スミス文献――目録および解題――弘文堂　1955』に再録

4　先生の著作目録・蔵書目録

25)　大塚金之助著作及び手稿目録（暫定）（一九四五（昭和二十）年八月末日現在）1945. 80p.

26)　大塚金之助私文庫目録（邦書の部）――一九五六年（昭和三十一年）六月現在――　1956. 225p.

27)　同上(二) 一九五六年――一九五九年　1959. 42p.

28)　同上（三）一九五九年――一九六二年　1962. 51p.

29)　INDEX LIBRORUM PPOHIBITORUM IN THE PRE-WAR JAPAN List of Books and Periodicals in Prof. Otsuka's Collection, Burned secretly by himself in 1940-1941, Under the pressure of the TOKKO (Special Higher Police) and the Kempei (Military Police), Compiled from the index-cards of the destroyed literature, Privately printed for Kinnosuke Otsuka, 1959. 182p.

以上の文献についてくわしい解題をつけることは別の機会にゆずり，ここでは頁数の許す範囲で簡単なコメントをつけるにとどめなければならない。

1）は，無署名で新潮社の『社会問題講座』各巻の雑録の欄に連載されたものである。これを先生の著作とした根拠は，この抜刷を先生が合冊してハトロン紙の表

紙をつけ，自筆で「(社会問題文献解題) 新潮社，社会問題講座 (1926)」と表題を書き，手稿の棚におかれていたことによる。ただし，この著作は25) の「大塚金之助著作及び手稿目録」では除かれている。その理由は分らない。そこで，これを最終的に先生の著作と断定することには少し問題がある。

内容は，第一編　マルクス主義文献 (1回から5回までが，マルクスの著作，6回から7回までが，エンゲルスの著作とマルクス，エンゲルス評伝，8回がマルキシズム一斑＝方法)，第二編　アナーアキズム文献 (9回から11回まで。ルソオ，ゴッドキン，フウリエ，プルウドン，以下)，第三編　サンヂカリズム文献 (12回。先駆的文献，サンヂカリストの諸著，等) の3部構成となっており，日本語訳および日本語文献も含まれている。

2) は社会主義書目，マルキシズム書目，ボルシェヴィズムに分類して33点の書目を解説したものであり，この分野においてはもちろん，社会科学領域においてわが国ではじめて作成された解題付の書目の書目である。

3) は2) の続編である。一般，マルクス，エンゲルス，レーニンの4項目に分類して23件を収録している。

5) から9) の文献は，先生が『商学研究』(東京商科大学の機関誌) の編集委員になられたのをきっかけに作成されたもので，海外の経済科学，経済社会思想史の重要文献のリストである。ただし，9) までで終った。

10) は編者が経済批判会となっているが，実際は先生が作成されたものである。105件のロシア語文献をドイツ語訳であげて，それに邦訳を附記している。

11) と12) は，先生のソヴェート同盟に対する関心の現われである。

13) については，「日本資本主義発達史講座月報」の第2号 (第2回配本附録，1932) に「『世界資本主義発達史文献解題』について」と題して書かれた先生の文章を引用しておこう。「世界資本主義の発生と発展と消滅に関する重要な文献を解説する――これが私の担当した仕事である……解題する諸文献は経済文献に限った。ドイツ古典哲学もドイツ文学もダーウィン進化論も資本主義の発展の産物であり，また促進者であったが，ここではそれらを包括してゐない。思想史を書く場合には入れなければなるまい……私はこのプランをさらに練って経済学史を書くことを生涯仕事の一つとして精進したいと心がけてゐる。」

この「文献解題」の発表された年の10月，「唯物論研究会」が先生らの尽力で創設された。翌年の1月，先生は湯ヶ島で『日本資本主義発達史講座』のために日本の経済思想史に関する論文を執筆中，逮捕された。このような酷しい条件の下で執筆されたこの論文に，先生自身，非常に不満であった。この文献の副本がいくつも残されているが，そのカバーに少しづつ違った表現で，先生のこの論文に対する心

境が書かれている。そのひとつだけを引用しておこう。

「この小冊子は，きわめて hasty にまとめられたもので，はずかしくて，人のまえに出せません。著者は，このようなはずかしい作業を逐次訂正増補することを余生の一つの仕事としています。49-10-25」

14）は，先生が逮捕前に公の雑誌に発表された最後の文献目録である。その後の先生は，文献目録や蔵書目録の紹介，講義用の参考図書リストの作成，自分の蔵書の蔵書目録（私家版）の刊行，経済学史学会の古典調査の指導，などの仕事をされたが，公の雑誌に文献目録を発表したことは一度もないと思う。

15）は，先生が慶応義塾大学や明治学院大学で行なった近代社会経済思想史の講義に出席した学生に配布したプリントである。このようなプリントを先生は東京商科大学時代からいくつも作成していた。いま書斎にあるもっとも古いものは，「(1932年度）経済学史講義資料．1932．22p.」である。

16）のエッセイには，2つの文献目録関係の項目がある。ひとつは，「フォクスウェル教授の死」であり，他のひとつは「自由主義時代の経済書目」である。

17）は，マカロックの「政治経済学の文献」，「ロンドン社会科学書目」，ベートソン「近代経済理論書目選，1870—1929」の紹介である。

18）のエッセイの①が「書物の旅行案内のない国」で，「内務省納本月報」の廃刊をなげき，各国の図書月報や週報を紹介している。先生はこれらの各国書目雑誌を丹念にチェックして書物の収集をされていたのであった。

19）は，フランスの65人の大学教授の経歴と著作の一覧表である「フランス大学における経済学研究の現状」という小冊子の紹介である。

20）は，ハーヴァード大学の Baker Library に所蔵されているアダム・スミス文庫の収集者，Homer v. Vanderblue 博士の「Adam Smith and Wealth of Nations, Boston, 1936」という小冊子の紹介である。

21）は，坂西由蔵博士記念事業会が坂西文庫のための資金募集の最後のアピールをした際，書かれた一枚のチラシである。ここに書かれた先生の文章は，そのまま先生の残された2つの大塚文庫にあてはまるであろう。

22）と23）は，先生がドイツ留学中，メンガー文庫を購入したいきさつを語ったものである。私たちは先生の亡くなる前から，メンガー文庫購入の思い出をききたいと願っていたが，ついにそのチャンスを逃してしまい，この2つの文章と当時の日記だけが残された。当時の関係者の最後の一人であった孫田秀春先生も昨年亡くなられ，ついにメンガー文庫購入のくわしいいきさつをきくことのできる先生は一人もいなくなってしまった。

最後の25)～29）は，先生自身の著作目録と蔵書目録である。25）は先生の手稿が

疎開の途中，横浜で空襲にあって焼失したことがきっかけとなって，急いで作成されたものである。私たちの，大塚金之助著作目録の作成作業は，この目録の発見によって，戦前の分については大いに進捗した。26)～28）は東ドイツの国立図書館へ寄贈された和書のコレクションの一部の目録であり，29）は先生が戦争中，特高や憲兵のきびしい監視のなかで自らの手で焼いた書物の目録である。以上の26）～29）について語りたいことは多いが，頁数の関係で省略したい。

以上，直接文献目録に関係する先生の著作を紹介したが，文献学者としての大塚先生の片鱗を知るためには，さらに戦前では，

30）マルクス＝エンゲルス全集；『商学研究』 7(2) (1928)

31）『資本論』民衆版の完成；『中央公論』 45(4) (1930)

32）経済思想史（要領） 岩波書店 1933 （日本資本主義発達史講座 第二部 資本主義発達史）

などの文献とともに，戦後に発表された『解放思想史の人々 岩波新書 1949』や，『ある社会科学者の遍歴 岩波書店 1969』の各章につけられた，たくさんの書物の注記や，先生が多くの雑誌，新聞に発表した読書，書物，図書館についてのエッセイ（その一部は，『小倉金之助；大塚金之助；上原専録：現代随想全集 東京創元社 1955』にまとめられている）を見なければならない。

また，未発表手稿のなかにも多くのビブリオを含む著作がある。例えば，29）の「経済思想史（要領）」の執筆準備のために作成された「明治経済思想史資料」と題された7冊のノートや，一橋大学，慶応義塾大学，明治学院大学の講義ノート，等々。これらの資料についてはつぎの機会に紹介することとしたい。

(1978. 9. 30)